

**製品名: RPA32 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17337**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	32kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RPA2
別名	RPA2; REPA2; RPA32; RPA34; Replication protein A 32 kDa subunit; RP-A p32; Replication factor A protein 2; RF-A protein 2; Replication protein A 34 kDa subunit; RP-A p34
遺伝子 ID	6118.0
SwissProt ID	P15927
免疫原	抗血清はヒト RFA2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

**背景**

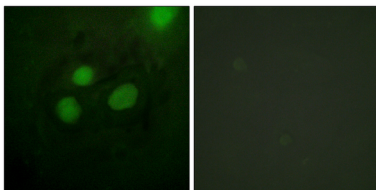
機能:DNA の組み換え、修復、複製に必要です。RP-A の活性は、一本鎖 DNA の結合とタンパク質相互作用によって媒介されま

す。PTM:細胞周期依存的にリン酸化されます (S期から有糸分裂まで)。DNAが損傷するとATRによってリン酸化され、核フォーカスへの移行が促進されます。in vitroでは、KuとDNAの存在下でPRKDC/DNA-PKによって、またCDC2によってリン酸化されます。細胞内局在:PML核体にも存在します。DNAが損傷すると、個別の核フォーカスに再分布します。サブユニット:70、32、および14 kDa鎖のヘテロ三量体。DNA結合活性は、70 kDaサブユニットにのみ存在すると考えられます。SERTAD3/RBT1に結合します。TIPINと相互作用します。機能:DNAの組み換え、修復、複製に必要です。RP-Aの活性は、一本鎖DNA結合とタンパク質相互作用によって媒介される。PTM:細胞周期依存的に(S期から有糸分裂まで)リン酸化される。DNA損傷時にATRによってリン酸化され、核フォーカスへの移行を促進する。KuおよびDNA存在下ではPRKDC/DNA-PK、およびCDC2によってin vitroでリン酸化される。細胞内局在:PML核小体にも存在する。DNA損傷時に個別の核フォーカスに再分布する。サブユニット:70 kDa、32 kDa、および14 kDa鎖のヘテロ三量体。DNA結合活性は70 kDaサブユニットにのみ存在すると考えられる。SERTAD3/RBT1に結合し、TIPINと相互作用する。

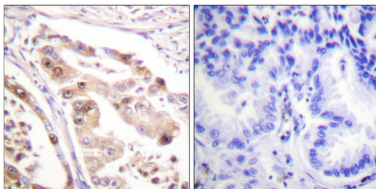
## 研究分野

DNA複製、ヌクレオチド除去修復、ミスマッチ修復、相同組換え、

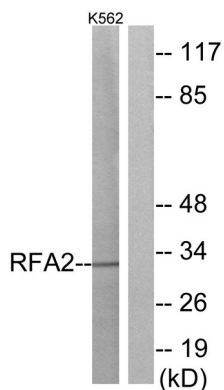
## 画像データ



RFA2抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



RFA2抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



K562細胞ライセートのRFA2抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。